

●日本語教育に必要とされる3つの言語学の授業

言語学 対照言語学 社会言語学

●言語学

他の学問から独立した自律的学問を目指す

ソシユール

- ・内的言語学と外的言語学 内的言語学を優先

アメリカ構造言語学

- ・音声学→音韻論→形態論→統語論

生成文法

- ・理想的話し手の存在を仮定

●対照言語学

ある言語と他の言語を（歴史的系統を考慮せず）突き合わせて、違いを探る
方法論ではなく、言語現象そのものに注目する

●それでは、社会言語学とは…

社会と言語の関係

●真田信治による社会言語学の研究領域分類

1. 方法論
研究方法・研究史
2. 属性とことば
年齢差・性差などことばの変異、集団語など
3. 言語行動
場面によるコード切り替え、敬語、コミュニケーション行動など
4. 言語生活
生活環境とことば、命名など
5. 言語接触
方言と標準語、外来語、二言語併用など
6. 言語変化
共通語化、ネオダイアレクト、移住とことばなど
7. 言語意識
ことばの規範、アイデンティティー、差別語など
8. 言語習得
第二言語習得、中間言語など
9. 言語計画
国語国字改革、日本語教育など
語用論も、授業構成上「社会言語学」で扱う

★言語生活とは

- ① 日本流の社会言語学
- ② 社会言語学の一分野
- ③ 「個」から見た言語現象 ⇔ 「(言語)社会共同体全体」から見た言語現象

- ・ いずれにしても、「言語学」・「社会言語学」との関連で見ていくことが大切
- ・ 社会的側面を排除して考えられるものは狭義の「言語学」で扱う
- ・ 「ことばの使われる環境そのもの」への視点「言語社会学」は双方の橋渡し
- ・ 言語行動と非言語行動（ノンバーバル・コミュニケーション）
- ・ パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーション
- ・ 言語行動の4つの領域 話す / 聞く / 書く / 読む
- ・ あとは、「社会言語学」で十分に扱えない「言語行動」・「言語生活」・「言語意識」・「言語習得」などを扱えばいいのではないか（というのが講師の見解）
- ・ 日本語で顕著な問題 敬語 / (国内の) 地域方言・社会方言の実例 / 自然言語処理

★「言語学」における理論的前提

① F・ソシュールの理論

- ・ ランゲージュ(人間の言語活動)=ラング(規則として取り出せるもの)+パロール(取り出せないもの)
- ・ 記号の社会性（他の言語社会共同体では適用しない）
- ・ 内的言語学（狭義の「言語学」）と外的言語学（社会と関連づけた言語研究）

② アメリカ構造言語学

- ・ 文化人類学的視点 「文字」の存在を前提としない
- ・ 言語相対性（言語決定論・サピア=ウォーフの仮説、ともいう）
- ・ 「意味」の研究の排除 意味論 / 語用論 / それ以外のことばのイメージ研究

③ 生成文法

- ・ 生物学的・認知言語学的視点
- ・ 人間の言語は「文化」なのか、「本能」なのか
- ・ 「理想の話し手」は存在するのか ⇔ アメリカの「社会言語学」

★非言語行動（ノンバーバル・コミュニケーション）

- ・ 人は言葉で他人を説得しているのだろうか
- ・ 母国語話者どうしの「メッセージ」伝達の65～70%は非言語行動（R.L.バードウィステル）
- ・ 動作学（Kinesics）・空間学（Proxemics）
- ・ 「個人」としての違いか、「文化」としての違いか

★パーソナル・コミュニケーションとマス・コミュニケーション

- ・文字の発明 / 活字の発明 / ラジオ・テレビの発明
- ・機械文明は、コミュニケーションのマスの側面を拡大させてきた
- ・最近では、コミュニケーションのパーソナル的側面の拡大にも関与を始める
- ・「ワープロ」「携帯電話」「インターネット」は、ことばにどんな影響を与えるか

★話しことばと書きことば

○話しことば

即時消失性 / かなり強い線状性の保持 / 運用面における非文法性の寛容（ソーセージモデル） / 超分節要素（アクセント・イントネーション・プロミネンス）などによる伝達情報量の増強 / 多義語の多用 / 非正統的な社会的位置づけ / 音声芸術の存在

○書きことば

永続性 / （ある一定単位による）組み替え可能性 / 運用面における文法性の遵守 / 超分節要素の使用不可能性 / 定義語の使用頻度大 / 社会における正統性 / 芸術における絵画的可能性

★言語習得

- ・第一言語習得と第二以降の言語習得
- ・個人レベル（⇔社会共同体レベル）での中間言語の存在
- ・第一言語習得 ベビートーク
- ・それ以外の言語習得 フォーリナートーク / ティーチャートーク
- ・個人レベルにおける二(多)言語使用（⇔社会共同体レベル）
- ・バイ（マルチ）リンガリズム

●外国語習得に対する講師の考え（オリジナルにつき取扱い注意）

○日本人の外国語習得の問題点

- ・文法構造の違い / 動機付けの不足 / 情報そのものの不足 / 非機能的な中間学習目標の設定
- ・寄せ木細工の学習モデルと粘土細工の学習モデル
- ・学習段階の設定
（買い物ができる / 「～がしたい」 / No という技術/文化の違いを説明 / 「本当に外国人なの」）
- ・基礎語彙（例 Basic English）
- ・文法的情報 / 文化的・環境的情報 / 定義のための上位概念語

★その他の問題（例）

- ・言葉が使われている場面（敬語・方言との関連）
- ・ことばに対する規範意識（敬語との関連）・連想イメージ
- ・外国語からの借用
- ・公用語・文字選択・正字法の問題
- ・どんな外国語を勉強するか

◎言語生活（敬語）

『敬語再入門』 菊池康人 丸善ライブラリー

●敬語は日本語だけの現象か

- ・日本語の場合は語彙体系を含めた複雑な体系性を持つ ほかには韓国語/チベット語/ジャワ語
- ・敬意表現は、英語にも存在する

●敬語の機能

- ・社会・集団のメンバーとしての正統性を示す（社会言語学的機能）
- ・主語を省略する可能性の保持（言語学的機能）

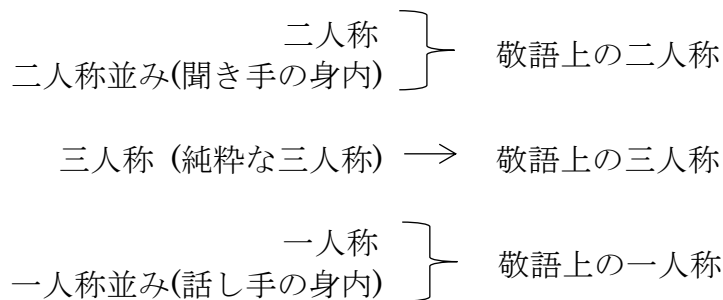
●待遇表現のなかの敬語

- ・待遇表現 話し手の相手に対する態度（敬意 / 丁寧さ / 改まり / 上品 / 好悪など）

①上下関係（立場的なものも含む） ②親疎関係 ③内外^{うちそと}の関係

このほかに使われる状況や心理的なものも含まれる

●敬語の人称と種類



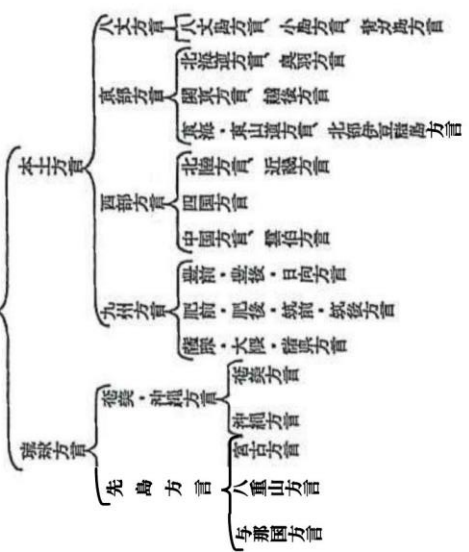
- ★尊敬語 主語、二・三人称を高める
 - ・「——（ら）れる」タイプ レル敬語
 - ・「お・ご～になる」タイプ ナル敬語
 - ・語彙的なもの
- ★謙譲語 主語の一人称を低くする 2種類あり
 - ・文の補語を相対的に高めるタイプ
 - ・聞き手を高めるタイプ
 - ・両者を兼ねるタイプもある 「私が社長をご案内いたします」
 - ・後者を丁重語（聞き手に対する丁重さのみをあらわす）として使う場合がある
- ★丁寧語 聞き手に対する丁寧さ

★美化語 / 改まり語

●敬語の誤りの例

「お持ちしますか」 / 「させていただく」 / 「お・ご～してくださる」（「二方面敬語」を除く）
「さ」いれ現象

全日本方言の区画



代表方言アクセントの型の対応(名詞アクセントの対応表)

共通語	京都	鹿児島	語 例
拍			
1	共通語 平エ (柄が)	板ガ (柄が)	柄・蚊・血・名・葉・目
	高エ (絵が)	頭エ (絵が)	絵・木・酢・手・葉・火
2	共通語 平エ (絵が)	板ガ (絵が)	絵・牛・梅・枝・顔・鼻 (柄・蚊・血)
	高エ (絵が)	頭エ (絵が)	石・紙・用・更・振・各・葉・目
	共通語 平エ (石が)	板ガ (石が)	足・家・犬・顔・縄・花
	高エ (海が)	頭エ (海が)	海・帯・家・衣・娘・木・酢・手
	共通語 平エ (夜が)	板ガ (夜が)	秋・汗・雨・森・春・夜

共通語	京都	鹿児島	語 例
拍			
2	共通語 平ク (行く)	板ク (行く)	行く・直む・売る・着る・煮る
	高ク (会う)	頭ク (会う)	会う・編む・打つ・来る・出る・見る
3	共通語 平ア (上がる)	板ア (上がる)	上がる・当てる・浮かぶ・明ける・借りる・枯れる
	高ア (余る)	頭ア (余る)	余る・折る・扱う・動く・超える・寝る・歩く・題す

代表方言アクセントの型の対応(形容詞アクセントの対応表)

共通語	京都	鹿児島	語 例
拍			
2	共通語 平ク (行く)	板ク (行く)	良い・無い
3	共通語 平ア (上がる)	板ア (上がる)	赤い・浅い・厚い・甘い・遅い
	高ア (余る)	頭ア (余る)	熱い・黒い・白い・高い・近い

京都方言のアクセント

- 型 ↓ アメ (飴)・ハナ (鼻)・エ (葉)
- 型 ↓ イシ (石)・ハナ (花)・ハナ (花)
- 型 ↓ イト (糸)・ハナ (針)・ハナ (針)
- 型 ↓ アメ (雨)・サ (猿)・ム (火)

- 型 ↓ サク (桜)・カタ (形)・ハナ (花)
- 型 ↓ ウサ (草)・スズ (雀)・ハナ (花)
- 型 ↓ デツ (田)・サ (草)・ハナ (花)
- 型 ↓ カイ (免)・カブ (免)・ツバ (椿)
- 型 ↓ アメ (鼻)・ハナ (鼻)・ハナ (鼻)
- 型 ↓ アタ (頭)・オト (男)・シロ (白)

注 普通語のように落した場合は鹿児島方言の形容詞のアクセントは次のようになります。

- 一語形容詞 ヨイ (食い)・ナイ (無い)
- 二語形容詞 アカイ (赤い)・アサイ (浅い)
- アツイ (熱い)・クロイ (黒い)
- しかしカ音尾の場合は つきに示すように対応表に挙げたようタイプです。
- 一語形容詞 ヨカ (食い)・ナカ (無い)

注 柄・名・絵は 東京方言では びりょうに落す。
例 下：下女 びりょう、下：下女 びりょう、下：下女 びりょう

◎語用論

近代の言語研究で目に見える（具体的）「カタチ」としての言語現象の研究を行う
例として、アメリカ構造言語学
言語研究レベル

音声学 ⇒ 音韻論 ⇒ 形態論 ⇒ 統語論
「音」 「音素」 「形態素」 「文」

意味の問題を回避（L.Bloomfield）
しかし、現実の問題として、「意味」から逃げ切ることにはできない。

意味論

「語」単独の「意味」 ⇒ 「意味素」分析
⇒ 「コア」と「プロトタイプ」
「文」の論理的な「意味」 ⇒ 生成意味論
⇒ 形式意味論（モンタギュ文法）

語用論

「文」の使われる状況から生じる「意味」(論理的解釈を超えたもの)
話し手や聞き手などの関与者の存在から生じるものをも含む
しかし、なるべく、「カタチ」(文法)との関係性を失わないものが(言語学的)語用論の
トピックになる
「文化」とも密接な関係を持つ

意味論と語用論の中間領域

日本語の指示詞「コ・ソ・ア・ド」
英語の冠詞 a(an) the

●発話行為論

J.R.Searle の 5 分類

①「断言的」 ②「指示的」 ③「言明的」 ④「表出的」 ⑤「宣言的」
「伝える」／「命令する」／「約束する」／「感謝する」／「宣言する」

α : 発話行為
 β : 発話内行為 (発話者の意図するところ)
 γ : 発話媒介行為 (発話者が聞き手に及ぼそうとする行為)

α : (職場で上司と二人きりで)「君も心機一転新しいことにチャレンジしてみんかね」
 β : 今と違う仕事に就くことを勧める
 γ : リストラ

●協調の原理 H.P.Grice (グライス)

基本原則：話し手と聞き手は、言語伝達においてお互いに協調すべきである。

- (a) 質の公理 : 根拠のある真実のことを告げる
- (b) 量の公理 : 過不足のない情報を与える
- (c) 関係の公理 : 関連した事柄を話す
- (d) 様態の公理 : 明確に、簡潔に、順序立てて話す

しかし、現実には、(気の利いた会話など) 違反の例は多い。

・質の公理の違反

A:「昔、あひるは寝坊が大好きで、『あ、昼。』」

B: (冷たく)「それ、世界一おもしろいよ。」

・量の公理の違反

A:「君、大学はどこなの。」

B:「はい、東京の大学です。」

C:「私は、N 高校から現役で T 大学法学部、それから O 省に入って税務署長です。」

・関係の公理の違反

A:「見てえ。このドレス、すごくかっこよくない？」

B:「君の誕生日はいつだっけ？」

・様態の公理の違反

A:「はい、こちらは、警察ですが。」

B:「えー、交通事故です。女の人から、すごく血が出ていて、大変です、すぐに来てください。えっ、場所ですか、ここは文京区の、いや、台東区なのかあ、ここは。」

●前提と含意

前提:「食堂は何階にありますか？」

前提 1: 食堂がある

前提 2: 建物は 3 階以上ある

前提 3: 聞き手は質問に答えられるだけの知識を持っている

含意:「君、声が大きいよ。」

二人だけの話だ。

●エンパシー / 視点

能動態と受動態

Beavers build dams.

Dams are built by beavers.

「くれる」/「やる」

太郎は、花子になかなか結婚を承諾してくれないので、いらいらしている。

花子は、太郎になかなか結婚を承諾してやらずに、いらつかせている。

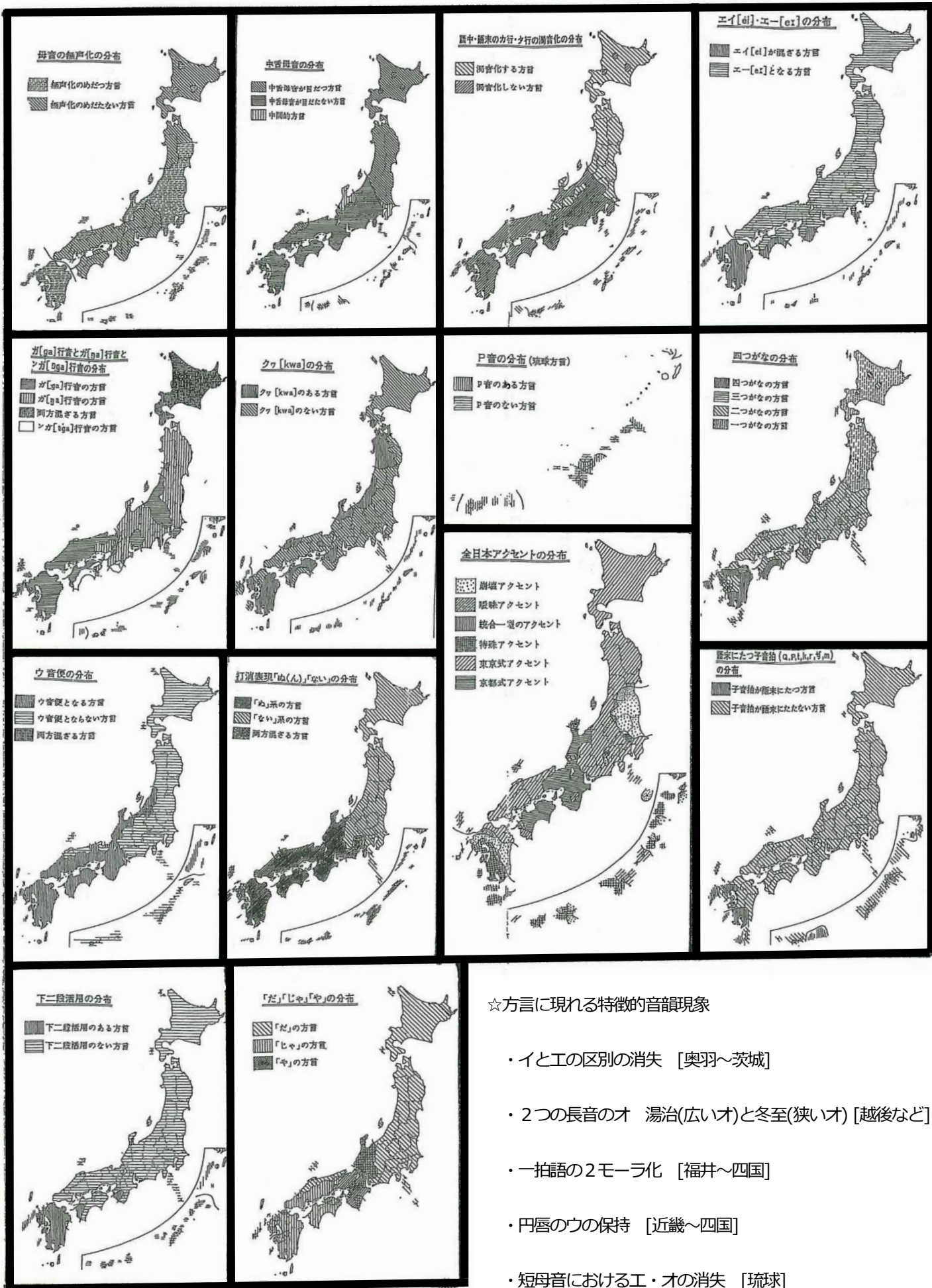
●言語教育上は文化論的な語用論も重要

がんばってね。

Take it easy.

善処します。

We'll do our best.



☆方言に現れる特徴的音韻現象

- ・イとエの区別の消失 [奥羽～茨城]
- ・2つの長音のオ 湯治(広いオ)と冬至(狭いオ) [越後など]
- ・一拍語の2モーラ化 [福井～四国]
- ・円唇のウの保持 [近畿～四国]
- ・短母音におけるエ・オの消失 [琉球]